

# ユーザー体験、管理、洞察の向上。

BYODからZoom Roomsへのアップグレード





## はじめに

多くの組織のIT部門と対話する中で、何度も繰り返される話題がありました。すべてまたは一部の会議室が、ディスプレイと基本的なプラグ&プレイ対応会議用カメラが設置されているのみであるなど、備え付けのハードウェアが限られているということです。そのような環境では、従業員は前述の会議室における会議の際に自分のコンピュータ（通常はノートPC）を持ち込む必要があります。これは、従業員にさらなる手間を強いることにもなります。従業員は適切なカメラ、スピーカー、マイクを選択する必要があり、コンテンツ共有が必要な場合は、適切なケーブルやドングルが必要になります。これは、エンドユーザーにとってはシームレスな体験ではありません。

IT部門にとっても、基本設備のみの会議室の機器管理は簡単ではありません。通常は、IT部門の担当者が各会議室を「見回り」、機器が正常に動作していることを確認する

か、誰かが機器の不調をIT部門に知らせてくるまで待機する必要があります。

最後に、リモートからの参加者にとっても、これは理想的ではありません。会議室内のカメラやマイクを選択を間違えると、映像や音声の質が低い会議になる可能性があります。さらに、複数の参加者がいる会議室で1台のカメラのみの映像を流すだけでは、リモートからの参加者が会議室内で行われている会話から取り残されたり、孤立していると感じたりする可能性があります。

これを改善しましょう。本記事では、BYOD（Bring Your Own Device）の会議室を、Zoom Roomsに移行するメリットについて紹介します。IT部門には監視と管理面のメリットがあります。またエンドユーザーには、生産性が高く公平な会議体験を提供できます。それでは、Zoom Roomsの機能とメリットを詳しく見てみましょう。

## BYOD（Bring Your Own Device）会議とは？

BYOD会議室では、従業員と従業員所有のノートPCが、会議の運営において中心的な役割を担います。会議室では、従業員のノートPCが、会議のホストとカメラのコントローラ役を果たします。このような会議室では、従業員のノートPCに依存することで、さまざまなプラットフォーム（例：Zoom、Microsoft Teams、Google Meet、Webexなど）に対応できる柔軟性が提供され、Zoomにとどまらない、多様なコラボレーションプラットフォームに対応します。

ハードウェア面を見ると、一般的なBYOD会議室には、映像用ディスプレイ、会議用カメラ（ロジクール

MeetUp、Rally Bar、Rally Bar Mini、Rally Bar Huddleなど）、カメラコントロール用のUSB-C to USB-Aケーブル、ディスプレイ拡張またはミラーリング用HDMIケーブルといった機器が用意されています。

BYOD会議室には柔軟性がありますが、前述の多くの問題が伴います。Zoom専用最適化された会議室（Zoom Roomsとも呼ばれます）にアップグレードすると、BYODが提供できる以上のメリットが得られます。Zoom Roomを使用すると、エンドユーザーは高度なコントロールなどの機能が利用できます。また、IT部門は優れた管理機能を利用できるようになります。次のセクションでは、移行に伴うメリットの概要を説明します。

## Zoom Roomにアップグレードするメリット

Zoom Roomは、Zoom会議環境を専用でシームレスに運営できるように設計されています。つまり、会議室自体が会議をスケジュールして運営するための完全な設備を備えており、エンドユーザーがノートPCから会議を運営する必要性がなくなります。Zoom Roomは、容易な会議室管理から、より高度な会議中の機能に至るまで、IT管理者とエンドユーザー双方に多くのメリットを提供します。これらのメリットについて詳しく見ていきましょう。



### 会議室の予約

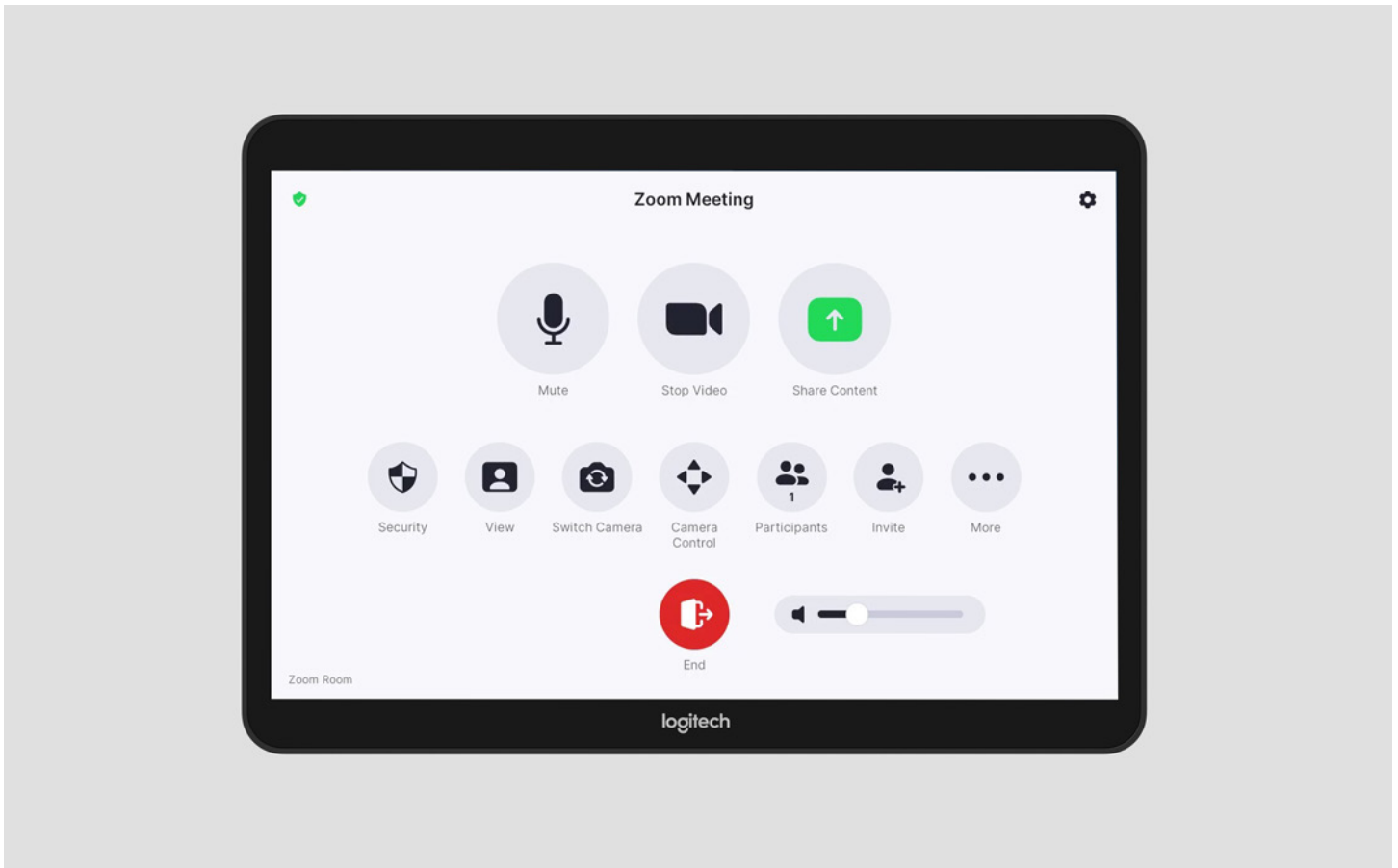
Zoom Roomは、基本的に「予約可能」であり、ユーザーは、会議をスケジュールするだけでなく、目的の用途に合わせて予約することもできます。予約状況は、会議室内の映像ディスプレイとTapデバイスの両方に表示され、会議室の空き状況をすぐに確認することができます。Tap Schedulerパネルが設置された会議室の場合、赤または緑のライトが点灯するため、会議室の外からでも空き状況がわかります。従業員にとって、会議スペースの場所確認と予約がしやすくなるというメリットがあります。



### 会議への参加を効率化

Zoom Roomsの利用は簡単ですが、これは会議への参加においても同様です。予約済みの会議はTapコントローラに表示され、ワンタッチで会議に参加できるほか、臨時的な会議は[New Meeting (新しい会議)]ボタンで開始できます。ユーザーは、[Join (参加)]ボタンを使用して、予約なしで開催中の会議に参加することもできます。以上のような機能によって、会議室で使用するケーブルの数が減り、個人のノートPCを持ち込む必要もなくなります。ただ会議室に入り、Tapコントローラで直接会議に参加するか、会議を開始するだけでよいのです。

さらに、[Zoomの相互運用](#)機能を使用すると、従業員はボタンを押すだけで、Microsoft Teams、Google Meet、およびWebex上の臨時的な会議をスケジュールし、参加することができます。

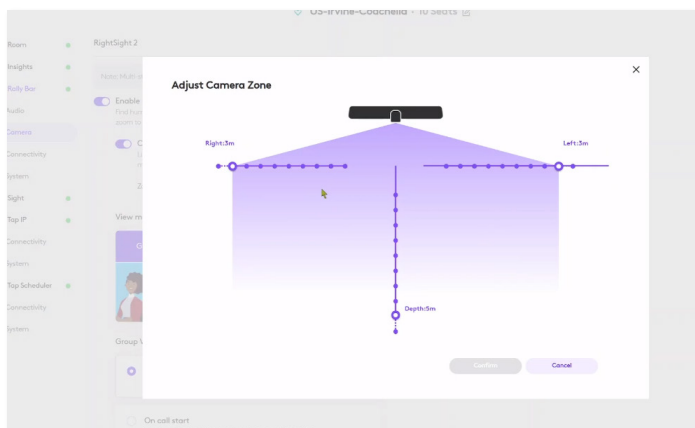


## カメラコントロールの強化

Zoom Roomsは、4種類のカメラビューを提供します。この機能が、ハイブリッド会議中、リモートからの参加者の公平性を改善するために重要な役割を果たしています。以下のカメラビューが利用できます。

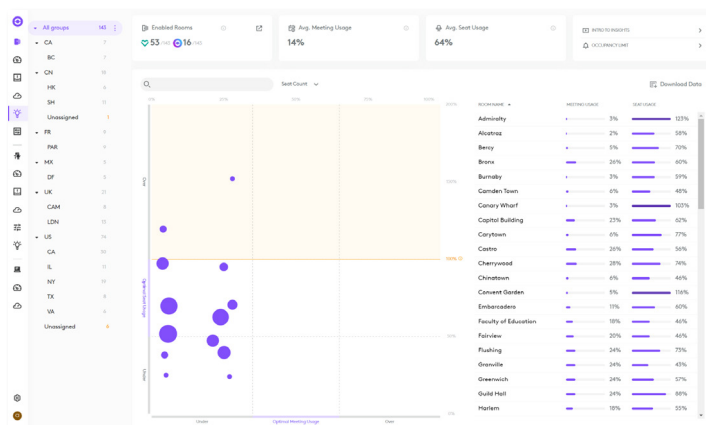
- ✔ **話者ビュー**：このビューでは、現在の話者1名に自動的に焦点が当てられます。
- ✔ **グループビュー**：自動フレーミングで会議室全体を表示します。参加者全員の様子を確認できます。
- ✔ **マルチストリームビュー**：カメラが最大4名の参加者を、各自のギャラリー画像内に表示します。また会議室のグループビューも併せて表示されます。
- ✔ **インテリジェントディレクタービュー**：複数のカメラがある会議室では、Zoomのインテリジェントディレクターが最大9名の参加者を表示します。ZoomのAI機能の活用により、各参加者は最適なカメラアングルで表示されます。

これらのカメラビューにより、従業員は生産性が高く、公平な会議を実現するために最適なカメラスタイルを柔軟に選択できます。



## きめ細かな機器設定

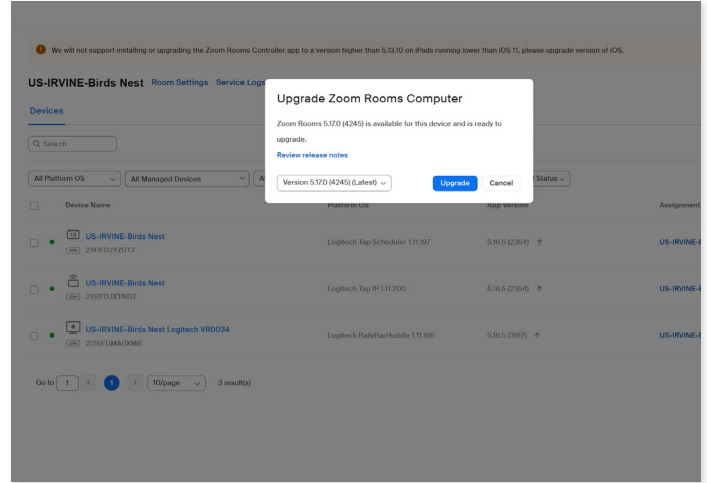
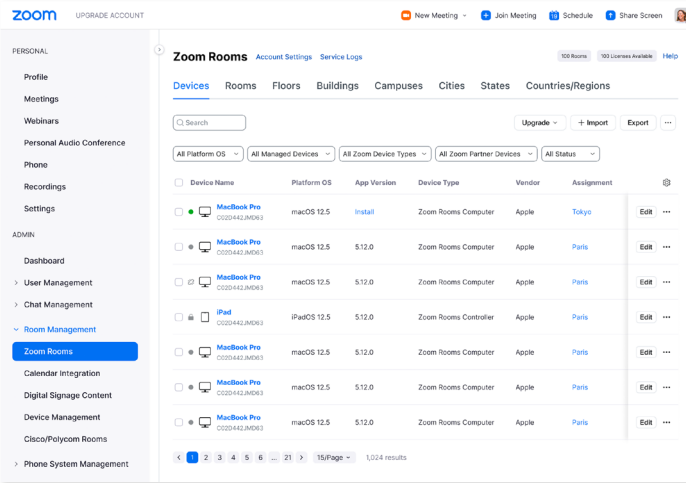
従業員にとってのメリットに加え、IT管理者にも、特にデバイス管理の面で多数のメリットがあります。管理者は、CollabOSの設定またはロジクール Syncにより、スピーカー、マイク、カメラの調整に関して、高度な機器設定を行えます。「カメラゾーン」という最新の設定機能では、管理者はカメラがフレーム内とする範囲を指定できます。これは特に、壁面がガラス製の会議室や、大型の窓がある会議室で役立ちます。カスタマイズのレベルが向上するため、ロジクール機器があらゆる形状やサイズの会議スペースに柔軟に対応できるようになります。



## インサイト

Zoom Roomsは、デバイスと会議室の使用状況に関する豊富なデータも提供します。IT管理者や、関係する施設管理部門などは、このデータを活用して、プラットフォーム、デバイス、会議スペースの使用状況をより詳しく把握できます。

管理者はロジクール Syncを使用して、デバイスがオン/オフになるタイミングによって、会議室の使用パターンを大まかに確認できます。これは、IT部門と施設管理部門が会議室の利用状況を把握するのに役立ちます。その結果としてどのような不動産に関する決定やテクノロジー投資を行う必要があるかを判断する参考にすることができます。



## リモートデバイス監視

Zoom Roomsのデバイス監視は、デバイスのステータス、ファームウェア、プラットフォームのパフォーマンスの概要を提供するリモート管理ツール、Zoom Portalによって容易になります。Zoom Portalを使用すると、管理者は単一のペインビューから包括的な会議室の監視を行うことができるため、各会議室を手動で確認する必要がなくなります。

さらに、Zoomダッシュボードは、プラットフォームの使用状況、会議の分析、パフォーマンスに関するレポートを提供します。このレポートは、IT部門が総合的な改善が必要な領域を特定するのに役立つ重要な情報を提供します。

## アップデート管理

アプライアンスベースのデバイスでは、ソフトウェアのアップデートが必須です。アップデートでデバイスに新しい機能が追加されることも多いためです。アプライアンスベースのデバイスを使用すると、管理者は、ロジクールSyncの更新チャンネルを通してデバイスの更新プロセスを管理できます。

管理者は、ロジクールSyncポータルでチャンネルを作成し、そのチャンネルに適用するソフトウェアバージョンを指定して、デバイスをそのチャンネルに割り当てることができます。アップデートが利用可能になった場合、管理者は各チャンネルのソフトウェアバージョンを変更するだけです。管理者はロジクールデバイスの検証とアップデートを確実に管理下に置くことができます。



## Zoom Roomのセットアップ

Zoom Roomのセットアップは、次の2つの方法のいずれかで行うことができます。

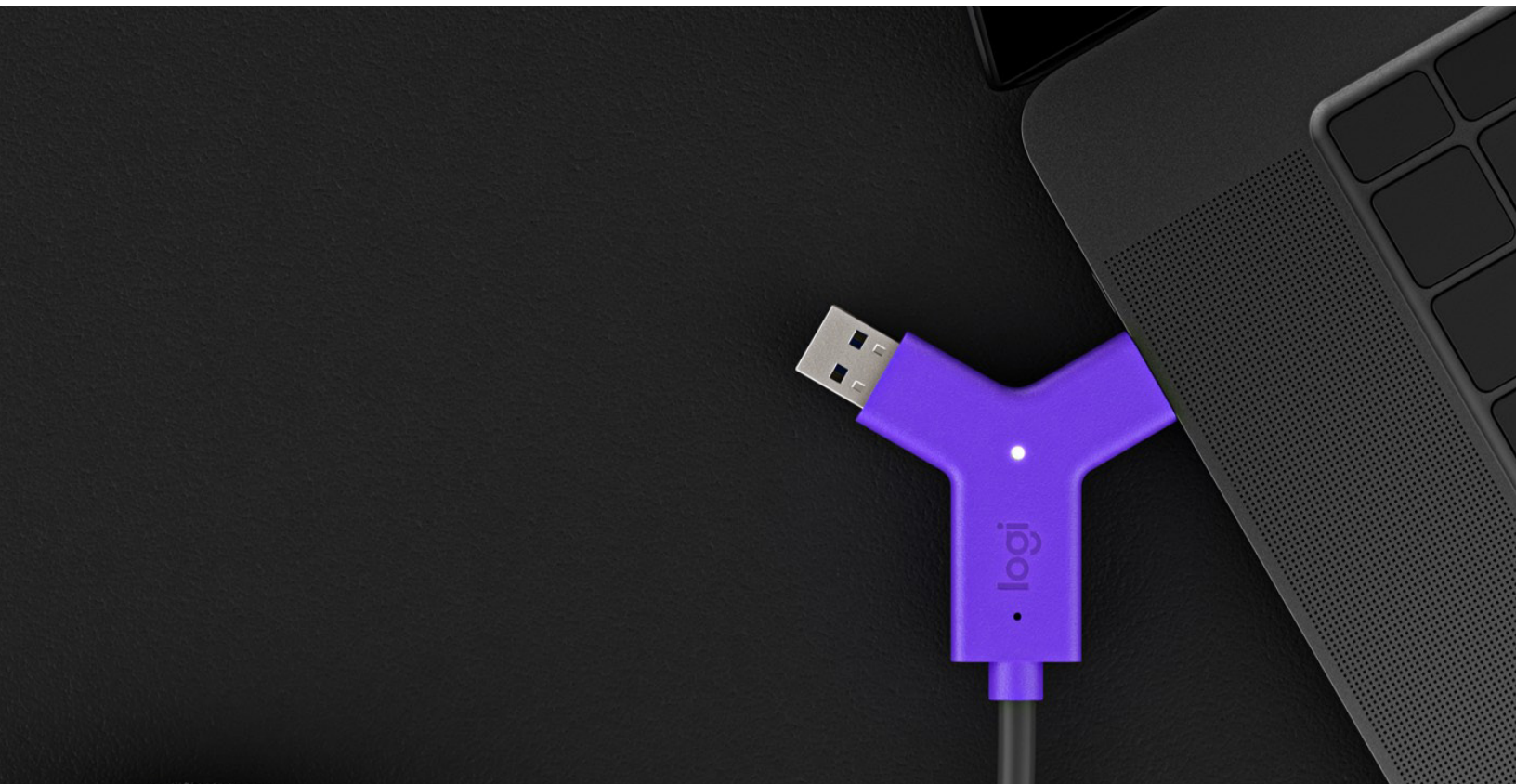
### WindowsまたはMac上で実行されるZoom Roomsクライアント

WindowsでZoom Roomsアプリを実行する専用PCが必要です。専用PCは、会議室コントローラ、映像ディスプレイ、Rally Bar Huddleなどのビデオバーなど、会議室内の主な会議用機器に接続されています。

### アプライアンスデバイス上で実行されるZoom Roomsクライアント

この会議室では、ロジクールRally Bar Huddleなどのコンピュータ内蔵ビデオバーを、映像ディスプレイに直接接続して使用します。会議室コントローラは、Rally Barカメラに直接接続するか、ロジクールRelay経由でワイヤレスでペアリングしたスタンドアロンデバイスとして使用します。

ロジクールでは、Rally Bar、Rally Bar Mini、Rally Bar Huddleなど、さまざまなAndroidベースの機器（アプライアンス）を提供しています。ロジクールRally カメラやRally Plus Systemなどのアプライアンスではない機器を備えた会議室では、Androidベース コンピュータとしてロジクールRoomMateを追加できます。会議室コントローラについては、ロジクールTap（USBベース接続）か、Tap IP（IPベース接続）のいずれかを選択できるため、さまざまなタイプの会議室や構成に対応します。



## 追記：ロジクールSwytchを追加して、2つのモードの利点を活かす

BYOD会議室をZoom Roomsにアップグレードすることの多数のメリットについて説明しました。ただし、アップグレードしても、先述のBYODの汎用性が失われるわけではありません。Zoom Roomsは、ロジクールSwytchを使用すると、BYODモードとの切り替えが簡単にできます。これはDisplayLinkテクノロジーによるケーブル1本で利用可能なソリューションであり、ノートPCを接続するとBYODモードに切り替えることができます。この機能により、従業員が1本のケーブルを接続するだけで、Zoom Roomsでもこれまで通りMicrosoft Teams、Google Meet、Webexにとどまらない、他のプラットフォームでの会議に参加できるようになります。両方のモードの利点が活かされるのです。

BYOD会議室をZoom Roomsにアップグレードすると、会議室におけるハイブリッドコラボレーションを大きく改善できます。Zoom Roomsを利用すると、組織は高度な会議室管理機能のメリットを手に入れ、シームレスで生産性が高くなり、より公平な会議体験を従業員に提供できるようになります。進化するハイブリッドワークの世界において、Zoom Roomsへの移行は、テクノロジーのアップグレードにとどまらず、改善を続けるデバイスとソフトウェアに対する投資であるとおわかりいただけるのではないのでしょうか。

**logicool**

販売代理店または当社  
([www.logicool.co.jp/business](http://www.logicool.co.jp/business))  
までお問い合わせください

このホワイトペーパーは、情報提供のみを目的としています。ロジクールでは、このホワイトペーパーに記載された情報に関して、明示または黙示または法定を問わず、いかなる保証も行いません。このホワイトペーパーは「現状のまま」で提供されており、ロジクールによって随時更新される可能性があります。

© 2023 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。Logicool、LogiおよびLogicoolロゴは、米国および/またはその他の国における、Logitech Europe S.A.およびその関連会社の商標または登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。ここに記載されている情報は予告なく変更される場合があります。